



せいふ農産

Earth to Table

西部開発農産の
大規模農業生産における
持続可能な農業の実践に向けた取り組み

スマート農業推進フォーラム2023 in 東北
生産性向上と環境負荷低減による「みどり戦略」の
実現に向けて

令和 5年 12月13日 (水) 13:00~17:00

仙台合同庁舎 A棟 8階講堂

株式会社 西部開発農産

生産部 清水 一孝

大規模農業生産における持続可能な農業の実践に向けて

クロープシステム（播種から収穫までのICT技術をフル活用した機械化農業）の構築と作物生産の最適化を目指す

大豆生産におけるICT技術（スマート農業技術）の活用



(開発中のものを含む)



↑

3,372圃場、約912haの農地	
主食用米	66.7ha
飼料用米	158.4ha
稲WCS	84.8ha
小麦	165.4ha
大豆	370.1ha
蕎麦（二毛作を含む）	172.1ha
子実トウモロコシ	1.9ha
永年性牧草	44.7ha
（令和5年）	

- ↑
- 80人の生産に携わる従業員（全100人）
 - 55台の車両
 - 90台の農機
 - 110台のタッチメント
 - 10棟の農産物取扱施設

- ↑
- 現状は、自動操舵装置の活用による精度の高い作業と燃料消費削減、将来的にはロボットトラクターの活用による省力化と作業効率改善。
 - 農業のDX化による労働生産性の向上と1人当たりの耕作管理面積の増大。
 - 有機物の投入量をコントロールすることにより化学肥料の削減（マニュアルセンシング）。
 - セクションコントロール・自動運転を活用した精度の高い農薬防除と農薬量の削減（自動飛行ドローン、低圧・少量散布が可能な防除機の活用）。
 - 環境にやさしい農業の実践と食育の推進（学校給食への供給）。
 - ISOBUS、害虫モニタリング、気象予報等のデータの積極的な活用と連携の強化（API連携）、それに依る気候変動に強い農業の実践。
 - 土壌図、土壌診断、収量マップを活用した効率的な土つくりの実践。



ご清聴あり
がとうござ
いました

連絡先（お問い合わせ先）

- 株式会社 西部開発農産 生産部
- 清水 一孝 / Shimizu Kazutaka
- 〒024-0335 岩手県北上市和賀町後藤1地割333番地
- TEL: 0197-73-6471 FAX: 0197-73-6475
- Email : k_shimizu@seibu-kaihatsu.jp
- URL : <http://www.seibu-kaihatsu.jp>

本報告の一部は、農林水産省「スマート農業実証プロジェクト(スマート農業産地形成実証)」(事業主体：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)の支援により実施されました。
コンソーシアム名：ICT利用による東北地域における畑作物(大豆・小麦)収量向上サービスの実証・実装